



(1) 2040年に向けた高等教育の
グランドデザイン

情報技術などの発展による「第4次産業革命」や、本格的な人口減少社会の到来など、社会の大きな変化が予想される中で、高等教育機関が求められた役割を果たせるよう、概ね2040年頃を見据えたこれからの時代の高等教育の将来構想について文部科学省中央教育審議会が2018年にとりまとめたもの。2040年とは、グランドデザインが取りまとめられた2018年に誕生した子どもが浪人・留年・休学などをせずに進級・進学した場合に、大学を卒業する年度に相当する。

(2) 大学院(応用情報科学研究科)の
設置構想

西日本の公立大学として初めてとなる情報系専門職大学院を2026年(令和8年)4月に設置する構想。最先端の情報技術を高度に身につけ、地域や企業等のデジタルトランスフォーメーション(DX)やイノベーションをリードする情報系高度専門職人材を育成することが狙い。この取り組みは独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による「令和7年度大学・高専機能強化支援事業」に採択されている。
注:設置計画や研究科名称は予定であり、変更となる可能性がある。

新しい教室とともに学生、教職員、地域の方々の交流を育む
ウェルビーイングスクエアを備えた新校舎が2024年春に完成



開放感のある commons



学生の経営するカフェ「Tierra」

「地域は学問の道場」
地域を实践的な学びの場として活用
地域貢献大学ならではの学びであり、コミュニケーション・ペースト・ラーニング

「地域がどんな人材を求めているかを知るため、100社を超える事業者へのアンケート調査を行いました。あわせて、文部科学省が行ったとめた『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』も参考にしながら、Social5.0の到来、人生100年時代、グローバル化、人口減少といった様々な社会の変化を想定し、これからの時代で地域課題の解決に資する人材を育成するための教育体制を整備しています」(高田学長)

専門の枠を超えた学びとして、経済経営学と人間健康科学が重なる健康経営学、人間健康科学と情報科学が重なる医療情報学、情報科学と経済経営学が重なる経営情報学など、学部横断科目が多数用意されています。「3学部5学科の学びが一体となつて、地域のウェルビーイングを目指します」と高田学長は言います。専門以外の科目に目を向けると、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は文部科学省によって21年にリテラシーレベル、22年に応用基礎レベルの認定を受けました。このほか、EQ(心の知能指数)教育、SDGs、ダイバーシティ、デザインシンキング、システムシンキング、周南学など、多種多様な総合教養教育科目が置かれています。

「地域は学問の道場」
地域を实践的な学びの場として活用
地域貢献大学ならではの学びであり、コミュニケーション・ペースト・ラーニング

「地域がどんな人材を求めているかを知るため、100社を超える事業者へのアンケート調査を行いました。あわせて、文部科学省が行ったとめた『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』も参考にしながら、Social5.0の到来、人生100年時代、グローバル化、人口減少といった様々な社会の変化を想定し、これからの時代で地域課題の解決に資する人材を育成するための教育体制を整備しています」(高田学長)

専門の枠を超えた学びとして、経済経営学と人間健康科学が重なる健康経営学、人間健康科学と情報科学が重なる医療情報学、情報科学と経済経営学が重なる経営情報学など、学部横断科目が多数用意されています。「3学部5学科の学びが一体となつて、地域のウェルビーイングを目指します」と高田学長は言います。専門以外の科目に目を向けると、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は文部科学省によって21年にリテラシーレベル、22年に応用基礎レベルの認定を受けました。このほか、EQ(心の知能指数)教育、SDGs、ダイバーシティ、デザインシンキング、システムシンキング、周南学など、多種多様な総合教養教育科目が置かれています。

「地域は学問の道場」
地域を实践的な学びの場として活用
地域貢献大学ならではの学びであり、コミュニケーション・ペースト・ラーニング

「地域は学問の道場」と捉え、地域と連携しながら課題を発見し、解決法を見出すことに挑戦するという実践的な学びの手法です。「地域には、一つの分野の専門知識だけでは解決することのできない、複合的な課題が数多く存在しています。そのような実践的な学びを経験することで、自分の専門だけでなく、自分以外の学問の促進や、既に社会で活躍されている方とのネットワークの形成、難題にチャレンジする力の醸成など、さまざまな効果が期待できるのです。課題解決が上手く達成できた場合には自己肯定感を高めることができ、これは自分自身のウェルビーイングにつながります。また、地域の課題は多くの地域で共通しています。周南での学びは他の地域や他の国でも応用が可能です」(高田学長)

地域との接点はキャンパスの中にも用意されています。24年に新設された5階建てのS1号館は学外にも開かれた施設となっており、学生が地域住民と気軽に接することができる場となっています。また、より人の往来の活発な徳山駅前まちなか共創センターにはサテライトオフィスを配置し、地域との連携に係ることをワンストップで受け付けるなどして、地域と大学の垣根を低くしています。周南公立大学の次なる施策は、留学生の獲得と社会人の学びの直しです。留学生については、主にアジア



「地域は学問の道場」
地域を实践的な学びの場として活用
地域貢献大学ならではの学びであり、コミュニケーション・ペースト・ラーニング

「西日本の公立大学初の専門職大学院の開設ということで、申請段階からかなりの期待を感じています。社会人を対象とし、実際に動いている組織の課題解決をテーマとした研究を行うことで、研究成果を地域に還元できればと考えています」(高田学長)

地域貢献という一貫した目的達成に向けて、新たな施策を次々と打ち出す周南公立大学。その成長著しい姿は地方の公立大学でありながら、全国からの注目を浴びています。

「地域は学問の道場」
地域を实践的な学びの場として活用
地域貢献大学ならではの学びであり、コミュニケーション・ペースト・ラーニング

「西日本の公立大学初の専門職大学院の開設ということで、申請段階からかなりの期待を感じています。社会人を対象とし、実際に動いている組織の課題解決をテーマとした研究を行うことで、研究成果を地域に還元できればと考えています」(高田学長)

「西日本の公立大学初の専門職大学院の開設ということで、申請段階からかなりの期待を感じています。社会人を対象とし、実際に動いている組織の課題解決をテーマとした研究を行うことで、研究成果を地域に還元できればと考えています」(高田学長)

「西日本の公立大学初の専門職大学院の開設ということで、申請段階からかなりの期待を感じています。社会人を対象とし、実際に動いている組織の課題解決をテーマとした研究を行うことで、研究成果を地域に還元できればと考えています」(高田学長)



たか たかふみ
高田隆学長
広島大学教授、理事・副学長(社会産学連携担当)、国際口腔顎顔面病理学会会長、日本臨床口腔病理学会理事長などを歴任。2019年に徳山大学学長に就任し、2022年より周南公立大学理事長・学長。

周南公立大学は、公設民営大学の先駆けとして1971年に設立された徳山大学を前身とします。約50年間に渡り山口県東部地域の「知と地の拠点」という役割を果たしてきた徳山大学の精神を受け継ぎ、地域住民のウェルビーイングを高め、豊かな生活を送ることができるまちづくりに貢献する「日本一の地域貢献大学」をめざしています。

2022年に公立の周南公立大学として新たに始動し、4年目を迎えました。この間に、地域の課題解決に対応した3学部5学科体制への改組や、開かれた新棟の建設など、地域貢献という使命を明確にし、さまざまな取り組みを実施しています。さらには、社会人を対象とした専門職大学院の設置を構想したり、世界第4位の人口を持つインドネシアとの連携など、新たな施策も次々と打っており、まさにダイナミックな変化の最中にある大学と言えます。

周南公立大学

〒745-8566 山口県周南市学園台843-4-2 経営企画課広報室 TEL 0834-28-6880 <https://www.shunan-u.ac.jp/>

地域で学び、地域の課題解決に資する 次代の人材を育成。世界とも連携し、 「日本一の地域貢献大学」を目指す

全学を挙げて志や価値観を共有し、
地域貢献の使命を果たす

周南公立大学の前身である徳山大学は、創立50周年を迎えた2021年に、ミッション(使命)を地域の持続的発展と価値創造のための「成長エンジン」となること、ビジョン(目指す姿)を、「地域に輝く大学」となることと定めました。

そのミッションとビジョンを受け継ぎ、翌年に公立大学として新たに開学した周南公立大学は、「日本一のまちづくりの中核となる」というパーパス(志)を持ち、「学生のためになるかどうか、地域の発展につながるかどうか」というパリュウ(価値観)を全学で共有しながら、教育・研究・社会貢献活動を行っています。「地域貢献のためにある大学である」ということを、公立化を機により明確に打ち出しています。教職員はもちろんです、大学にとって一番大切な存在である学生たちにもメッセージを伝え、思いを共有しながら様々な取り組みを実施しています」と高田隆学長は語ります。

未来をつくる3つの学部と5つの学科

経済経営学部	<p>経済経営学科 Department of Economics and Business Management</p> <p>経済学・経営学の知見とグローバルな視点から地域社会の核を目指す。 経済学と経営学の基礎的・応用的な知見を学修し、さらに国際的な視野と思考法を身につけます。幅広い知見と視野をもって地域社会が直面する課題にアプローチし、持続的発展に貢献できる人材を育成します。</p>
人間健康科学学部	<p>スポーツ健康科学科 Department of Health and Sport Sciences</p> <p>スポーツで人々の交流を促進し健康な地域づくりに寄与する。 スポーツおよび人々の健康・幸福の向上を目指すリーダーを育成するため、講義・演習・実習を体系的に配置し、教育・研究の成果を地域に還元することで、健康な地域づくりに貢献できる人材を育成します。</p>
	<p>看護学科 Department of Nursing</p> <p>様々な健康状態にある人の 一人ひとりに寄り添って豊かに生きる力を引きだし、未来の健康を創造する。 複雑化・多様化する医療提供体制に対応する能力、地域の人びとや保健医療機関と共に健康課題を解決していく能力を備え、病状や障がいの有無にかかわらず、身体的・精神的・社会的側面から、その人らしくより豊かに生きていく力を引き出すことができる人材を育成します。</p>
	<p>福祉学科 Department of Social Welfare</p> <p>福祉課題を解決し地域の安心を生み出す人材を育成する。 福祉課題の解決に向けて、ソーシャルワークを土台に子どもやシニア、地域に関する学びを深め、人々のWell-beingに寄与できる人材を育成します。</p>
情報科学部	<p>情報科学科 Department of Information Science</p> <p>地域産業を支える情報科学のエキスパートに。 世界をリードし、社会を変えていく力を持つICT・データサイエンス。科学技術の新たな発展に貢献できる学びと、実社会に必要な情報科学の知識・技術を身につけます。</p>